

各委員からの意見等

今井延子委員

小熊竹彦委員

立花宏委員

藤尾益也委員

吉水由美子委員

平成15年7月7日

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針に関する意見

委員名 今井延子

1 動向編(案)について

(意見)

中広い視点で捉えていると思います。

2 今後の需給見通し等の考え方について

(意見)

15年6月末時点以降の在庫数量の考え方で、より確実な在庫数量を把握する意見から、集荷段階で出荷取扱い数量500^t以上の者、販売段階で取扱い数量が1000^t以上の者という枠は大きいのではないのでしょうか。

平成 15 年 7 月 7 日

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針に関する意見

小熊 竹彦

1. 動向編（案）について

（1）高齢者および高齢単身者の需要動向について

米の消費に関する動向では子どもや若年層の動向が話題になりがちですが、前回分科会資料3(4)の表1-1-2にもありますように、米の一人当り消費量の減少率が高い50歳以上の層、とりわけ高齢者層の需要動向に関する研究を急ぐ必要があると考えます。とくに今後急増が予測されている高齢単身者層については、現状のまま推移すると、ニーズがあるにも関わらず「米離れ」が進む可能性があります。人口推計によれば、早ければ来年度をピークに日本全体が人口減少社会に入る一方、高齢者人口は今後も増加していくことになっています。高齢者および高齢単身者の需要が今後の需要動向を大きく左右するひとつの要因にもなりうると考えられ、今後の「消費拡大などに向けた取組」においても対応策を検討していく必要があると考えます。

（2）若年層の需要動向について

米の消費に関する若年層の需要動向では、学校給食において米飯給食が広く浸透してきている現状を正しく情報提供するとともに、すでに米飯給食世代が若年層を構成していることから、その後の食生活との因果関係についても研究を図っていく必要があると考えます。年齢階層別分析だけでなく、コーホート分析が必要だと思えます。

（3）米の在庫について

米の在庫の在り方については、「米はまず人が食べる食料として生産される」という点から、保有・販売期間が長期化している在庫の問題を考える必要性を感じます。一定の備蓄の必要性はありつつも、長期化した場合には廃棄ないし廃棄同様の取扱いをせざるを得ないことを踏まえ、財政負担の視点もあわせて考慮するならば、通常の食生活で使えないような長期在庫（一般の市場では「不良在庫」と呼ばれる）を極力うまないための努力が強く求められると思えます。

2. 今後の需要見通し等の考え方について

(1) 基本的考え方

『今後の需要見通し等の考え方』については、その前提として『米政策改革大綱』及び『生産調整に関する研究会報告』における基本的考え方を踏まえる必要があると考えます。すなわち、

『米政策改革大綱』より

「国は、公正・中立な第三者機関的な組織の助言を得て、透明な手続きの下に、需給情報を策定し公表する。」

「生産数量を調整する方式へ転換する。生産数量の目標は、客観的な需要予測を基礎に設定する。」

『生産調整に関する研究会報告』

「米の需要量予測と生産目標数量の策定に関して、第三者機関的な組織において、国が可能な限り客観的な需要予測を策定できるよう、また国及び農業者団体ができるだけ需要に応じた生産目標数量を都道府県に配分できるよう、それぞれに対して必要な助言を行う。」

「生産目標数量は、需要に応じた生産と価格の安定が図られるよう、客観的な需要予測を基礎に設定する。」

を、基本的な考え方に据える必要があります。

したがって、本分科会に求められることは、

- ①公正・中立な第三者機関的な組織として、自らの主体的な責任を自覚して、必要な助言を行うこと
 - ②手続きの透明性を確保すること
 - ③できるだけ客観的な需要予測をめざすこと
- と考えます。

(2) 需要量（実績）について

第1回分科会資料3(5)の「1 需要量（実績）について」は、基本的にすでに確認をされている内容であり、妥当なものと考えますが、問題は「別紙1」にある計算結果です。

	11年産	12年産	13年産
需要量(万トン)	876	924	862
増減(万トン)	—	+48	▲62

※小数点以下切り捨て

上記の数値は、動向編(案)が示しているデータ(ダウントレンド)と明かに矛盾しており、その要因を明確にする必要があります。具体的には、流通段階にある中間在庫の状況に起因する問題と考えられますが、いずれにしても、その問題点をどう是正するのか、「需要見通し」の手法においてどう考慮するかを検討する必要があります。データが一人歩きする危険性も考慮して、一般の国民にも理解できるような「わかりやすい説明」が必要と考えます。

(3) 需要見通しについて

「2 需要見通しについて」では、全国の需要見通し及び都道府県別の需要見通しの手法として、それぞれ4つの手法が提示されています。手法を検討するにあたって、留意して頂きたい事項としては、以下の諸点があります。

- ①前記の基本的考え方にそって、客観的なデータで構成され、主観的な意図が入らないようにすること。また、一般の国民にも理解できるようなわかりやすいものとするために、可能な限り簡素なものとする
- ②前記の需要量(実績)の問題点を踏まえたものであること
- ③それぞれの手法についてメリット、デメリットを整理し、可能であれば事務局としての判断案も提示するなど、できるだけ前提条件を整理した上で、分科会での判断を仰げるようにすること
- ④需要変動に対して俊敏に対応することができない農業生産の特殊性に鑑み、需要見通しを設定する際には、トレンド自体は中長期的な視野を持つてできるだけ安定的なものとし、短期的なデータによって乱高下するようなことが避けられるように配慮すること
- ⑤現在存在するデータに伴う制約があつて本来あるべき姿にできないような場合には、当面の手法とデータが一定程度蓄積された段階での手法を区分けして考える柔軟性も持つこと

以上の点を踏まえつつ、分科会でできるだけ望ましい手法を、採用していくことが求められると思います。

以上

平成 15 年 7 月 7 日

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針に関する意見

委員名 立花 宏

1 動向編(案)について

(意見)

- ① 基本的には資料 3 (2) の柱立てで良いと思うが、内外価格差の動向や財政負担の多寡についても触れておいてもらいたい。
- ② 資料 3 (1) の基本方針の活用方法に関連して一般消費者のニーズのみに限定するのではなく、増大する外食産業や加工産業の動向やニーズも取り上げてもらいたい。

2 今後の需給見通し等の考え方について

(意見)

- ① 都道府県別に生産と需要が如何にマッチしているか否かをデータで語らせることは大変結構なことと考える。但し、同じ県内産といっても良質米の産地とそうでない地域があり、その辺をどう判断するかも課題ではないか。つまり同一県内についても各市町村毎に生産と需要のマッチング状況を見ることが必要となるのではないか。

平成15年7月7日

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針に関する意見

藤 尾 益 也

動向編(案)について

大きな柱として「中長期的な米の需給動向」・「直近の米の需給動向」・「米の輸入に関する動向」の3つがあり、それぞれに米の消費・生産・需給・流通・輸入等に区分されて細かく説明をされているが、消費量でみると「食生活の変化」・「少子高齢化」等、今後「増」となる要因が見つからない。又、生産部分では「耕作地の放棄」・「農家の高齢化・後継者不足」と厳しい現実がある。今後とも好転する材料が見当たらないのが現状である。

一方、集荷販売に目を向けると「売れる米」「売れない米」と産地により、今まで以上の厳しい状況が考えられ、更に作柄状況によっては、大きく変動することも考えられる。「消費」「生産」「需給」をどのようにうまくリンクさせていくかが、大変難しい問題であり、「小委員会」「専門委員会」的なものを作り、きめ細かく検討していく必要がある。

今後の需給見通し等の考え方について

需要量の把握については、新米出回り期の6月末在庫を起点とするのは、実情に合致しており、時期的にはタイムリーであるが、全国の生産数量(各産地都道府県の意向・販売戦略等)・販売業者の流通在庫(商売としての商戦略等)の正確・的確な把握がキーポイントであり、それをいかに需給見通しに反映させるかが、大きな課題であると考えらる。

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針に関する意見

委員名 吉水 由美子

1 動向編(案)について

(意見)

1. 米の消費に関する動向 (1) 米の消費量の变化 (2) 消費者の行動及び志向の変化 (P1~P5) により、全体のロジックとしては以下のような構造かと思われします。

少子高齢化の進展
↓
世帯構成の変化 (核家族化 単身・夫婦のみ世帯)
↓
女性の社会進出

生活水準の向上 → 食の選択肢の多様化 → 簡便化志向の高まり

簡便化志向の高まり → 食の外部化 (外食・内食化)
↓
家庭内食におけるコンビニの普及低下

簡便化志向の中には、「省力化」(Ex: 面倒なことは避けたい/体力があとをええと避けるをええ!)
「省時間」(Ex: 調理にかける時間がない/待ち時間を短縮したい)の両面があると思いますが、
「面倒なことは避けたい」という側面のみが、最も強調されているのが、真になります。
「簡便化志向」という一言でくることで、消費者ニーズを見出ししつうのでは…と懸念しております。

2 今後の需給見通し等の考え方について

(意見)

考え方、算出式については、理論的には理解したつもりであります。

需見通しの手法については、少しでも消費動向というファクターが入っているという意味で、
C集が近いかもしれません。重回帰式という可能性はありますか。(将来的に...)

$$Y = a_1 X_1 + a_2 X_2 + a_3 X_3 + a_n X_n \dots + b$$

X₁: 生産動向 X₂: 消費動向 X₃: その他測定可能な独立変数
b: 過去の需見

現実的には難しいと思いつ、bの考え方として提出させていただきます。